

式辞

鴻雁北（こうがんかえる）。

燕の飛来と入れ替わり、冬鳥の雁が北へ帰っていく季節となりました。群れをなし、連なって飛んでいく姿は、実に美しく、絵画や文学に描かれています。

この本格的な春の到来を感じる今日の良き日に、同窓会長 徳永壮太郎様、PTA会長 中川内昇様をはじめ、役員の皆様のご臨席を賜り、ここに令和六年度佐賀県立武雄高等学校、第十五回入学式を挙行できます

ことを心から感謝申し上げます。



さて、新一年生二四〇名の皆さん、入学おめでとうございます。また、保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。お喜びもひとしおかと存じます。

新入生の皆さん、本校では、皆さんの入学を心待ちにしていました。皆さんも今日のこの日を少しの不安と大きな期待で胸を膨らませながら待っていたことでしょう。

本校は「質実剛健・報恩感謝の誠を尽くす」を校是とし、今年度、創立百十六年目を迎える歴史と伝統をもつ学校です。外見を着飾るのではなく、内面の充実を尊しとする校風を受け継ぎ、毅然・凜然とした品格ある人間となることを期待しています。

そして現在、本校のスローガンとして“TAKE OFF！”という言葉掲げています。「飛行機などが離陸する」という意味の“TAKE OFF！”です。文字どおり「この学校で学び、より高くトビ立て！」という意味ですが、実はここにもう一つの意味を込めています。それは“TAKE OFF！”を英語で書くと TAKEO に FF を加えた文字になります。加えた二つの F は FUTURE Frontietr の頭文字の FF。TAKEO FUTURE Frontietr。つまり、「武雄で学ぶ者よ、未来の開拓者であれ」という願いを込めています。

本校には、教育愛あふれる先生方や高い志をもって切磋琢磨する仲間たちがたくさんいて、学習や部活動、校外での活動など、自分が望む分野に精一杯打ち込むことができる最高の環境を整えています。きっと皆さんも「未来の開拓者」として成長していくことでし

よう。



この学校には中学時代よりも、もっと多様な仲間たちがいます。人生の喜びや学びの多くは、自分とは異なるものを持つ友人と接することからもたらされるものです。今日からは一人一人が武雄高校生です。出身中学校の枠を取り払い、不安やモヤモヤを生きるエネルギーに変えて、自分の殻を打ち破ってください。そして、ぜひ多くの人と一緒に活動する場面を愉しんでほしいと思います。

折しも、不確実性の高いこの時代、過去を振り返ってもそこに正解はありません。必要とされるのは、新しい発想、新しい考え方です。そこで、私からのお祝いに、「正解を探す」のではなく「問題を探す」ことの大切さを伝えたいと思います。

このことを「ジクソーパズル」と「レゴブロック」にたとえてお話ししましょう。

「ジクソーパズル」を皆さん、ご存じでしょうか。決められた枠の中に、ばらばらのピースを、できるだけスピーディにはめ込んで、一枚の画を完成させるゲームです。

このパズルゲームのように、これまでの日本では、ピースとしての知識を手際よく条件に当てはめて、定められた「正解」というゴールに到達する、そういう力が求められていました。

ピース、すなわち「知識」が多ければ多いほど、大きくて複雑な絵ができます。したがってピースをため込むこと自体に重要な価値がありました。それがこれまで求められてきた力です。

しかし、現在の情報化社会、そして皆さんが社会の主役となる Society5.0 と言われる高度情報社会は、そういう時代ではありません。

新型コロナウイルス感染症、世界各地で勃発する戦争や紛争、少子化、チャット GPT をはじめとする AI の進展など、教科書には載っていない初めての状況に遭遇し、計画どおりにはいかなかったり、そもそも、何が正解なのかが分からなかったりする時代です。

そうした社会では、「正解を探す」のではなく、「今、何が問題なのか」、「なぜそれが問題なのか」、自分の目でよく観察し、自分の頭で筋道を立てて考え、仲間と協働しながら「最適解」を作り上げていくことが大切になってきます。



つまり、言ってみれば、色も形も大きさも違うブロックを組み合わせ、新しいものを創造、クリエイトしていく力が求められているのです。もちろん、このブロックの一つ一つは知識・技能であったり、考え方だったりするわけですが、私は、「色も形も大きさも違う」と言いました。このブロックは、教科書のような与えられた均質の知識だけではなく、自分の興味・関心に応じて深掘りして身につけた、自分の強みとなる知識や技能、考え方なのです。

その意味で、本校では『探究』という姿勢を大切にしています。『探究』とは、教科の学習でも部活動でも、生徒会活動や校外活動などなんでもいい、自分の興味・関心がある分野、一番自分らしいと思える活動に没頭することです。皆さんには高校時代に、いろいろな経験をしてそれを探して欲しいし、『探究』活動を繰り返しながら、深掘りする方法を身につけてほしいと思っています。

どうか皆さん、これまでの枠や自分の殻を打ち破り、『探究』する姿勢を揺るぎない軸として、これからの学校生活を送ってください。勉強は目的ではありません。『探究』の手段

なのです。この三年間でみなさんは間違いなく大きく成長します。

さて、保護者の皆様、お子様のご入学、誠におめでとうございます。これまで、手塩にかけて育ててこられた、大切なお子様を三年間本校でお預かりいたします。

私たち教職員は総力を挙げ、お子様方一人一人にしっかりと寄り添い、責任をもって、教育に当たることをお約束いたします。

手前みそではありますが、本校は優れた指導力を持った教職員を揃えております。私たちは「全ての子どもたちを、全ての教職員で支援する」ということをモットーにしております。困ったことがあれば、どの教職員でも構いませんので、遠慮なくご相談ください。

また、新学習指導要領の学年進行による実施3年目の完成年度を迎え、「総合型」「学校推薦型」の募集枠が増えたり、大学入学共通テストに教科「情報」が入ったりするなど大学入試のありようも変化しています。



こうした中においては、各教科等の学習はもちろんですが、一人ひとりの強みを引き出し、磨き上げるために、探究型の学習活動、主体的で自律的な部活動や生徒会活動、加えて「日本の次世代リーダ―養成塾」や「武雄市とのまちづくり参画事業」、そして今年から新しく始まる「デジタルイノベーター、D I人材育成事業」などの活動に、これまで以上に積極的に取り組んでいきます。

こうしたいろいろな場面をとおして、お子様方の成長をお感じになっていただければ幸いです。

では最後にもう一度、一年生の皆さんにお話しします。

今年は二〇二四年です。二十二世紀まであと七十六年。まだ遠い先のようなですね。でも間違いなく皆さんたちの中には、次の世紀を見る人がいると思います。二十二世紀はどんな世界になっているのでしょうか。その基盤を作るのは皆さんです。

そんな未来に向かって夢をはせ、この学校でたくさん Try & Error の経験を積み重ねながら、しなやかでたくましい心と体を築き上げていってください。

入学おめでとう。今日から三年間、みんなで一緒に頑張りましょう。

令和六年 四月 十日

佐賀県立武雄高等学校長 下村 昌弘

